

徳島県でミズダコ発見！

海洋生産技術担当 住友寿明

Key word; ミズダコ *Octopus dofleini*, 水温, 延縄, 分布

珍しいタコが獲れた！

平成 25 年 4 月 8 日, 阿南市の椿泊漁協から伊島南の太平洋岸の水深 200~300m で操業する深海延縄で珍しいタコが水揚げされたと一報がありました。この深海延縄には, 以前にも珍しい生物(ゾウクラゲ)が掛かったことがあります(水研だより第 82 号「アカムツ延縄に掛かった謎の生物について」参照)。翌々日の 4 月 10 日, 水産指導員がこのタコを水産研究課美波庁舎に持ち帰ったので, 種の同定と体長・体重の測定を行いました。その結果, 胴の紋様や胴の表皮が柔らかくたるんでいることからミズダコと同定されました(写真 1, 2)。



写真 1 平成 25 年 4 月 8 日, 椿泊漁協で水揚げされた体重 7.2kg, 全長 1.2m のミズダコ。定規の最大目盛りは 1m であるため, その巨大さがわかる。

ミズダコはどんなタコ？

ミズダコ(*Octopus dofleini*)は, 体長 3m にも達する大型種であり, 三陸沖から北海道周辺, 北部太平洋亜寒帯海域の沿岸から陸棚上で普通に見られます(奥谷, 2000)。分布域から基本的に北方系のタコと考えられます。

マダコが生息しない北海道や東北等の北日本では, ミズダコが重要な漁獲対象となっています。農林水産省の海面漁業生産統計によると, 平成 23 年における北海道のたこ類の漁獲量は 17,881 トンですが, その多くがミズダコではないかと思われま。

なぜミズダコが獲れたのか？

先ほど示したとおり, 日本におけるミズダコの分布域は, 三陸沖や北海道周辺となっています。これに従うと, ミズダコは徳島県沿岸に生息していないことになります。では, なぜ徳島県沿岸でミズダコが獲れたのでしょうか? 次のとおり検証してみました。

温度は生物の分布に影響を与える要因のひとつです。そこで, 徳島県沿岸がミズダコの生息に適した温度環境にあるか調べてみました。ミズダコが生息可能な水温についてはデータが見つかりませんが, ミズダコが生息していると思われる北海道余市郡余市町前浜地先における 2012 年の旬別平均水温は, 4.5~25.0°C で推移しています(北海道立総合研究機構水産研究本部中央水産試験場ホームページ参照)。一方, 当研究課所属の漁業調査船「とくしま」が実施し

た海洋観測による 2012 年の海部沿岸海区の平均水温は、表層が 15.55～28.72℃で、最高水温が 3～4℃、最低水温が 10℃以上高くなっています。これでは北方系のミズダコの生息は困難かもしれません。これに対し、水深 200m 層では 12.01～14.27℃、水深 300 m では 8.22～ 10.71℃となっています。このため、徳島県沿岸でも深海延縄が操業しているような水温の低い底層付近であれば、ミズダコが十分に生息できる温度環境にあると考えられます。



写真 2. ミズダコを持ち上げたところ

同じような事例として、私が過去に調べたタラバガニの仲間であるイバラガニモドキがあります（水研だより第 43 号「かご漁法による深海生物調査」参照）。イバラガニモドキは、ベーリング海、オホーツク海、松島沖～銚子沖～相模湾に分布します（酒井, 1976）。しかしながら、平成 12～13 年に紀伊水道外域の紀伊海底谷周辺で、かご漁法による深海生物調査を行ったところ、水深 460～ 800 m でイバラガニモドキが採集されました。このように北方系の魚介類でも、南方の深場の様な水温が低い場所では生息が可能と考えられます。

また、徳島県沿岸で深海延縄漁業を行う漁業者は少なく、ミズダコが人目につく機会も非常に少なかったので分布域として認められていなかったのかもしれませんが。

最後に、以前のゾウクラゲに引き続き貴重な生物を提供していただきました、椿泊漁協の漁業者並びに職員の皆様にお礼申し上げます。

参考文献

奥谷喬司, 2000. 日本近海産貝類図鑑. 東海大学出版会, 1082-1083.

酒井恒, 1976. 日本産蟹類. 株式会社講談社, 436

住友寿明, 上田幸男, 2003. かご漁法による紀伊海底谷の深海生物調査. 徳島県立農林水産総合技術センター水産研究所研究報告(2), 19-25.